

令和5年度の宇佐市環境整備事業交付金を活用して地区内の史跡、名所など計5カ所に由緒書き看板を設置しました。前号に続き、今回はそのうちの2カ所について掲載、ご紹介します。 地区内を散策される折には是非お立ち寄り、見学されますようお願いいたします。

後藤 久氏 顕徳碑

けんとく

後藤 久氏は津房村五郎丸に生まれ、18歳で北九州八幡に出て刻苦勉励して会社重役となった。

居住した八幡でも社会貢献活動を行なったが、氏の愛郷心は特に強く、皇紀二千六百年（昭和15年・西暦1940年）記念として萱籠^{かやこもり}毛無尾原野^{けなしおげんや}30余町歩を買収し、これに苗代と植林費用を添えて当時の津房村農協に寄贈。

粉骨努力して得た財を、郷土公共の為に投ずる事は稀にみる美拳であり、村はこの事を後世に語り伝えるべく、村役場前（この地）に委細を刻した顕徳碑を建立。

奇しくも、氏は昭和15年、惜しまれながら58歳で逝去。篤志を引き継いだ地区の青年たちは、手弁当で下草刈などの奉仕をして大美林に仕上げたが、後年、山林の一部を売却して津房農協会館建設・その他の公共事業資金としても活用した。

その後（昭和44年）、津房村農協が安心院町農協と合併したのに伴って毛無尾林も移管されたが、津房地区民の共有財産として地区が買いもどし、大美林のまま現存する。

なお、現在の毛無尾林は津房地区まちづくり協議会が管理している。

案内板設置 津房地区まちづくり協議会



→ 地区公民館駐車場脇に設置されている後藤 久氏の顕徳碑と由緒書き看板



← 板場集落・善福寺境内に建立されている後藤先生を讃える記念碑と由緒書き看板

私塾 宝光学舎跡（善福寺境内）

当善福寺の前身は宝光寺で、正徳元年（1711年）からあった。

宝光学舎は宝光寺に併設され、住職 後藤円宗先生（元治元年・1864年生まれ）は初等・中等・高等の三科を編成し、各一ヶ年を修了期間として教育した。

私塾ながら、授業料は一切徴収せず、明治29年（33歳）〜昭和9年（70歳）没年まで開塾し続けた。

（大分県では明治24年（1891年）公的な学校が始まる）入塾者は安心院・院内全域のほか、旧上村^{かみむら}や南端村^{みなみはた}（現杵築市や日出町）に回り、400名あまりの卒業生を数える。

卒業生の中からは、村長・弁護士なども輩出、人智の源として地域に大きく貢献した。

大正12年、卒業生により寺の境内に敬愛の情を込めたこの記念碑が建立された。

その志を継いだ現任職も寺を守りながら教育者を務めた。また、副住職も最高学府の教育者として携わっている。

なお、宝光寺の敷地を引き継いだ当善福寺は、京都の伏見鳥羽にあった寺を明治26年に移したもので、天平年間（729〜749年）に行基菩薩により開基された。

案内板設置 津房地区まちづくり協議会